

2 発電所等の環境保全

(1) 大気汚染・水質汚濁・騒音などの防止

発電所や変電所等の設備運用にあたっては、法令はもとより、関係自治体と環境保全協定を締結し、これを遵守しています。

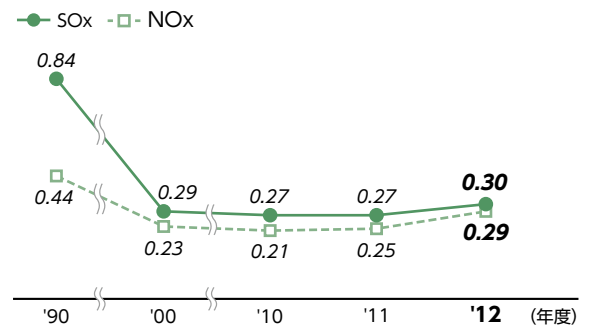
■ 大気汚染対策

火力発電所から排出される硫黄酸化物(SOx)、窒素酸化物(NOx)等の排出を低減するため、様々な対策を行っています。

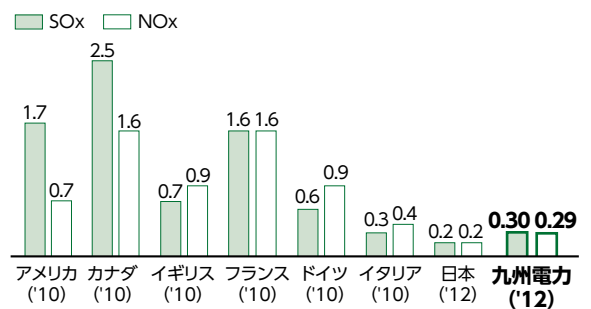
2012年度の火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量は、SOxが0.30g/kWh、NOxが0.29g/kWhとなり、昨年度を上回る結果となりました。これは、原子力発電所の停止に伴い、火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量が比較的多い発電所の発電電力量が増加したことによるものです。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 火力発電所における環境保全対策のイメージ図

火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量 単位:g/kWh



世界各国の火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量 単位:g/kWh



出典：[海外] (排出量) OECD, OECD.StatExtracts (Environment, Air and Climate) (発電電力量) IEA, ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES 2012 EDITION
[日本] 電気事業連合会調べ (10電力+電源開発(株))

用語集を
ご覧ください

- 大気汚染
- 水質汚濁
- 環境保全協定
- SOx (硫黄酸化物)
- NOx (窒素酸化物)
- VOC (揮発性有機化合物)
- ばいじん

[参考] PM2.5って、どんな物質

環境省ホームページより引用

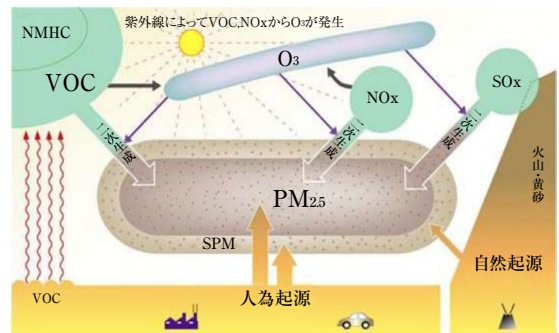
PM2.5(微小粒子状物質)は、健康被害をもたらすとされる粒子の大きさが2.5 μ m(1 μ m:1mmの千分の1)以下の物質で、北京を中心に中国で深刻な大気汚染を引き起こしており、偏西風に乗って日本にも飛来しているのではないかと、最近話題となっています。

このPM2.5には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物、窒素酸化物、揮発性有機化合物等のガス状大気汚染物質が、主として大気環境中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などの施設、自動車、船舶、航空機等の人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

環境省では、PM2.5の常時監視体制の整備を図っており、この結果を踏まえて、発生源の選定・寄与割合の把握、導入する対策技術の特定などを進めることとしています。

当社では、従来からばいじん等の排出規制を遵守しているところですが、これらの国の検討状況を注視しつつ、適切に対応していくこととしています。

● PM2.5の発生メカニズム



出典：環境省ホームページより抜粋